

玉名市学校規模適正化審議会（第1回）会議録

・ 会議録

開催日時	令和2年11月26日 午後7時～8時30分まで
開催場所	玉名市役所 4-2会議室
委員	別紙にて
出席者	委員 15名 池田教育長・西村教育部長・前田首席審議員・小山教育総務課長・桑本教育審議員・高田教育総務課指導主事・乗富教育総務課教育政策係長・大儀参事・中山主事・稲田主事
欠席者	高根委員、前川委員
議事	<p>1 委嘱状交付式</p> <p>2 審議会</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）教育長あいさつ</p> <p>（3）会長及び副会長の選任</p> <p>（4）議事《（ア）（イ）（ウ）は事務局説明》</p> <p style="margin-left: 20px;">（ア）審議会設置の目的</p> <p style="margin-left: 20px;">（イ）前回の計画について</p> <p style="margin-left: 20px;">（ウ）今後のスケジュール</p> <p style="margin-left: 20px;">（エ）その他</p> <p style="margin-left: 20px;">（オ）意見交換</p> <p style="margin-left: 40px;">①育てたい玉名の子どもの姿</p> <p style="margin-left: 40px;">②学校教育環境の整備について</p> <p>（5）その他</p> <p>（6）閉会</p>

・ 審議内容

1 開会

事務局（乗富）：皆様こんばんは。まずお願いがございます。皆様の机の上にチェックシートを置かせていただいております。恐れ入りますが、ご記入いただいて机の上に置いておいていただけないでしょうか、終わりましたから私の方で回収いたします。定刻より少し早いですが、第1回玉名市学校規模適正化審議会を開催いたします。本日は大変お忙しい時間にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。議事に入るまでの間、進行を勤めさせていただきます乗富と申します。よろしく願いいたします。着座にて失礼いたします。

2 玉名市学校規模適正化審議会委員委嘱

事務局（乗富）：初めに委嘱状の交付でございます。本来ならば、皆様お一人お一人に交付すべきところがございますが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため机上に配布させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。本日は15名の委員にご出席いただいております。玉名市学校規模適正化審議会要項第6条第2項の規定により、委員の半数以上出席という成立要件を満たしているということをご報告申し上げます。本日の日程ですが、審議会を会次第に沿って進め、次回会議の日程調整ののち、閉会致します。コロナ禍でもありますので、開催時間を1時間30分程度に短縮したいと考えておりまして、自己紹介の時間を割愛させていただきます。お名前についてはお手元にある資料でご確認ください。委員名簿は事前に送付した資料に入れてございます。本日の出席者は本日の次第に添付しております。本日は、高根委員、前川委員が欠席なさっています。本日の議事については、議事録を作成し、原則として公開いたします。議事録作成のため本日の審議会は録音いたします。後半に意見交換の時間が設けてございます。発言をなさる際は、発言の前にお名前を言っていただきますようお願いいたします。

3 教育長あいさつ

事務局（乗富）：それでは、審議会を開会いたします。はじめに、玉名市教育委員会池田教育長がご挨拶申し上げます。

池田教育長：はい。皆様こんばんは。ただいま進行の方が申しましたように大変なコロナ禍の中にこの審議会を開催いたしましたところ、お仕事の後でお疲れのところでもございましたけれども、このようにたくさんの皆様のご出席をいただきまして誠にありがとうございます。効率の良い議事の進行ができますようお願い申し上げたいと思います。玉名市におきましては学校規模の適正化を目指してこれまで色々な取り組みを行ってきました。その成果として玉陵校区の6校の小学校を1つにまとめて中学校との併設型の新しい学園を造ったところがございます。今日は私、学校訪問でその小学校の方にも視察をしてきましたけれども、大変子供たちも健やかにですねそして活発に教育を受けている姿を見てよかったなという思いがしたところです。現在2校目の途中に向かっているところです。天水校区の統合を進めてきておりました。天水校区も3校あるわけですが、第一弾として小天東小学校と小天小学校との統合が昨年度なされております。この後玉水小学校との統合について地元の方々のご意見を盛んにお聞きしているところがございます。このような学校規模適正化の歩みを進めているところですが、この後のことにつきまして、今日

のご出席の皆様方の忌憚のないご意見をたくさんいただきながらそして玉名市内の子供たちの健全な育成のために、学校規模適正化を図っていきたくと考えておりますのでどうぞ、貴重なご意見をいただきまして、この会の趣旨が達成できますようにご協力をお願いしたいと思っております。今日の委員のお名前等につきましては先ほど進行が申しましたように、名簿の方で紹介をさせていただきますが、熊大の古賀先生、経験豊富な方でいらっしゃると思いますので、ご出席いただいております。よろしく願いいたします。簡単でございますけれども、この後協議に移りたいと思っておりますので私のご挨拶はこれにて終わらせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

4 会長（議長）及び副会長の選任

事務局（乗富）：次は会長及び副会長選任でございます。審議会設置要綱の第5条に「審議会に会長及び副会長各1人を置く」また、「会長及び副会長は委員の互選によって定める」とあります。皆様いかがでしょうか。事務局案といたしましては、会長を古賀倫嗣様、副会長を永井正治様をお願いしたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。

—拍手—

ありがとうございます。それでは、会長を古賀倫嗣様、副会長を永井正治様をお願いいたします。それでは、永井副会長に自己紹介を、古賀会長にご挨拶をいただきたいと思っております。まず永井様お願い致します。

副会長：副会長を仰せつかりました永井でございます。出身は横島町で玉名市の区長会協議会の方からこの審議会の方へ出席させていただいております。審議会の目的をスムーズに達成できるように皆さんと共に努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局（乗富）：ありがとうございます。では古賀会長ご挨拶をお願いします。

会長：皆さんあらためましてこんばんは。只今会長の大役を仰せつかりました古賀でございます。平成30年の3月まで熊本大学教育学部に在籍して、平成30年4月から現在は熊本大学の敷地内に放送大学熊本学習センターというものがございます。全部で3000人くらいの学生が学んでいる熊本学習センターですが、そこで客員教授として学生相談や授業等をしております。私の専門は地域と学校等の連携といったことで、コミュニティ・スクールであるとか、地域学校協働事業といったところにつきまして研究を進めるとともに機会がありましたら、各市町村様に様々な事業のお手伝いをさせていただくということでございます。今回ご縁がございまして、玉名市様の学校規模適正化審議会の方にお手伝いさせていただくことになりました。少し長くなりますけれども、熊本県下でも玉名市の学校規模適正化のやり方というのは非常に特徴的なものでありまして、他の市町村にはない特徴があります。それは何かといいますと、小中一貫教育というものをベースにして、その効果的な教育活動のために小学校を統合していくというやり方でありまして、やはり現代の教育問題の課題は、中学校の教育課程にあるということですね、例えば生徒指導等をお考えになってもわかると思っておりますし、「14歳問題」という言葉が、かつてあったところでもあります。そういった意味では中学校をベースにいかにして小学校1年6歳から15歳までをつないでいくのか、そういった意味では私たち研究者にとっても非常に有意義な教育実践

というふうに考えているところです。今回その平成 24 年、後でご説明があるかと思えますけれども 8 年前におつくりになった計画を、今回改めて検討するということで、お手伝いさせていただくことを光栄に思いますがともに、委員の皆様方のご協力を得まして効率的な運営に努めたいと思います。交通整理というところがございますけれどもどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局（乗富）：ありがとうございます。これより先、会長に議長をお願ひいたします。よろしくお願ひいたします。

5 議 事（進行：議長〔会長〕）

議長： はい。これからは着座にて進めさせていただきます。本日の会次第でございますように、議事は5つであります。その他を外しますと4つでしょうか。審議会設置の目的、前回の計画について、今後のスケジュール、これを事務局からご説明いただいた後で、意見交換といたしまして、育てたい玉名の子ども姿、学校教育環境の整備について委員の皆様方と意見交換させていただいて、次に繋がる適正化の議論の、次回委員会に繋がるような審議をさせていただきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは事務局からのご説明どうぞよろしくお願ひいたします。

（ア）審議会の設置目的

事務局（乗富）： まず、玉名市学校規模適正化審議会とその目的についてご説明いたします。事前に送付いたしました、資料、「玉名市学校規模適正化審議会要綱」をご覧ください。資料ラベル1が貼ってある1枚ものがございます。「第1条 玉名市小学校及び中学校（以下「市立学校」という。）の適正規模について調査及び検討を行い、望ましい学校教育環境の整備に取り組むため、玉名市学校規模適正化審議会（以下「審議会」という。）を置く。」と規定しており、この第1条の規定に基づき、本審議会を設置いたしました。「第2条 審議会は、市立学校の適正規模に関し必要な事項について審議し、玉名市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に建議するものとする。」と規定しており、この第2条の規定に基づき、本審議会は、審議を行い、教育委員会に建議をすることになっております。少子高齢化に伴い、学校の小規模化が予想され、教育効果の上がる学校規模の確保、学校の適正配置が課題となり、平成 24 年 10 月に「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」を策定いたしました。その時もこの審議会において「学校規模・配置の適正化を進めるにあたっての基準・考え方及び学校規模・配置適正化の方向性」についてご検討いただき、建議という形でご意見をいただきました。平成 24 年に策定された第1次計画は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 年間の計画です。来年度に計画の策定から 10 年を迎えます。計画終了に伴い、2次計画にむけ本審議会を設置し、建議をいただきたいと思います。いただいた事項については計画に十分に反映し、よりよい教育環境のため計画を推進していきます。前回の建議については、資料でご確認いただければ幸いです。

（イ）前回の計画について

次に、前回の計画について説明いたします。事前に送付しました資料、ラベル3を貼ってある資料が、平成 24 年 10 月に策定された計画でございます。策定の背景は計画2ページにありますとおり、少子高齢化の進行に伴い、児童生徒数及び学級数の減少が進み、多く

の小学校が小規模校となってきたことから、教育機会の均等と教育水準の維持向上を図るため、教育効果を上げることを考えた学級規模・学校規模の適正化の推進が必要となったからでございます。玉名市教育委員会は「子どもたちによりよい教育環境を整備する」ことを第一に考え、当時の玉名市教育振興基本計画の基本理念である「未来を拓き 地域と国際社会に貢献する人づくり」を推進すべく計画を策定しました。また、その基本姿勢を「将来の夢や希望を描ける人づくり」「世界への順応力(グローバリズム)」「日本人としての尊厳(ナショナリズム)」「生まれ育った玉名への誇り(ローカリズム)」としました。P4 基本方針では、学校の規模適正化にむけた具体的方法として、学校再編、統廃合や通学区域の見直しについて考える必要があるが、中学校区の分断は慎重に進め、まず小学校の規模適正化を進めるとし、望まれる学校規模の基準を1学級の人数 40人まで、1学年の学級数を2学級～3学級、学校の学級数を12～18学級としました。適正な学校規模を確保するための取組として、学校の適正配置の検討、通学区域の検討、通学距離の検討、学校施設の整備等の検討など、学校と地域との関わりを含めて検討することとしました。通学区域については、現行の小学校の校区分割の変更は原則として避け、各中学校区をベースとした通学区域を設定することを基本としました。しかしながら、計画により通学区域の変更が望まれる場合や改善が求められる場合は、地域住民・保護者・学校関係者との慎重な協議を行い柔軟に対応するとしました。通学距離については、遠距離通学を支援するためスクールバスの運行等の対策を進めるとしました。小学校の通学距離はおおむね4kmを基準とし、それを超えた場合を遠距離と考えております。現在スクールバスは、玉陵小学校、小天小学校、大浜小学校の一部の児童が利用しております。学校施設の整備につきましては、現在の施設の有効活用の促進及び既存施設の状況、学校規模に応じた教室確保も含めて、施設の新築、改築の整合性を図るとしました。廃校となった跡地においても、地域住民の方々と検討を行い、有効な活用方法を検討するとしました。小学校の跡地については、民間事業者の活力やノウハウを活かした提案を公募し、魅力のある跡地活用を目指しています。現在玉陵校区の旧小学校の跡地の状況は、旧玉名小跡地：くまもと県北病院、旧石貫小跡地：文化財保管施設、旧三ツ川小、旧小田小跡地：福祉関係の事業所として活用が始まっています。旧梅林、旧月瀬小学校についても現在選定を行っています。P6 また特色のある学校づくりの1つの取組として「小中一貫教育の推進」を掲げています。学校規模適正化が進められた場合においては、小中施設の一体校となることがより望ましいとしながら、地域の実情、財政状況に応じ小学校と中学校で敷地を別として展開することも視野に入れ推進するとしています。また方向性としたしましては、「玉名市を6つのゾーンに分けた中学校区」に分け、小学校の学校規模適正化を進めるとし、その優先度の基準は、小規模校、特に過小規模校から順次検討していくこととしました。小規模校とは12学級未満の学校をいい、過小規模校とは、複式学級を有する学校となります。P8 また、再編するにあたっては新しい学校づくり委員会を設置することとしました。新しい学校づくり委員会は、地域の方々や保護者、学校関係者などで組織し、新たな校名、校歌、校旗、通学路、制服、PTA、移転計画、教育カリキュラム、跡地利用検討等について検討します。P9 6つのゾーンに分けた小学校の再編計画は、平成29年度の児童数推計値をもとに計画されました。玉名中学校区は、玉名町小、築山小については早急な適正化は必要ないと考え、滑石小学校については、校区の変更を検討する必要があるとしました。玉南中学校区

は、八嘉小、伊倉小が統合すると適正基準となるとしながら、20年先には統合しても1学級になる可能性も示唆しました。玉陵中学校区は、すべての小学校が統合すれば適正基準を満たすとあり、この校区は計画期間中の平成30年4月に玉陵小学校として開校しました。有明中学校区は、大浜小、豊水小、横島小すべての小学校が統合すれば適正基準を満たすとしました。岱明中学校区は、大野小、睦合小、鍋小、高道小すべての小学校が統合すれば適正基準を満たすとしました。天水中学校区は、玉水小、小天小、小天東小すべての小学校が統合すれば適正基準を満たすとしながら、10年先には統合しても1学級になる可能性も示唆しました。この計画をまとめたものが14ページの図になります。玉名中学校区は2小1中、それ以外の校区は1小1中とし、「早急な対応を必要とする校区」「本計画期間内に対応を検討する校区」「本計画期間内では児童数推移を見守る校区」の3区分を設け全体のスケジュールとしました。早急な対応を必要とする校区であった、玉陵中校区は再編し、玉陵小学校として平成30年4月に開校しました。現在は、第1次計画期間内に対応を検討する校区とある、天水中学校区は新しい学校づくり委員会において協議を進めております。前回の計画に関連した説明は以上でございます。玉名市の現状について説明いたします。ラベル7が貼ってあります、資料1でございます。ページをつけておりません。申し訳ございません。3ページをご覧ください。4 玉名市の人口の現状でございます。玉名市の人口は、市町合併をピークに減少傾向にあり、2015年の国勢調査をもとにした推計では、2045年の人口は46,675人となり、2015年からの30年で2万人以上の減少が予測されます。全世代において減少傾向が見込まれます。高齢者の人口割合が高く、15歳～65歳の生産年齢人口の減少が目立ちます。15～65歳の生産年齢人口の減少は、本市の児童・生徒数の減少に大きく影響を与えることから、今後、児童・生徒数の減少が進むことが予想され、現在の学校規模による学校教育活動の維持は困難な状況になることから、長期的な視点に立った学校規模の適正化に向け、教育環境の整備が必要となってきます。次のページ、4ページをご覧ください。5 児童生徒数の現状でございます。玉名市は、現在小学校15校、中学校6校を配置しています。児童数は3,374人、生徒数は1,602人で合計4,976人、特別支援学級も含め小学校に166学級、中学校に64学級が編成され地域の实情に応じた学校運営がなされています。玉名市の人口減少同様、児童・生徒数も減少しております。グレーのグラフが、本市全体の児童・生徒数の推移を示しております。2010年には5,724人であった児童・生徒数は2020年、今年度4,976人となっており10年間で748人減少しております。ブルーのグラフの小学校児童数は、2010年には3,730人、2020年、今年度は3,374人となっており356人が減少しています。本日追加で、児童数・学級数の資料を配布しております。現在300人以上の児童が在籍する小学校は、玉名町小、築山小、玉陵小学校だけでございます。玉陵小学校の児童が310人ですので、それ以上の人数が10年間で減っているということになります。次のページ、5ページをご覧ください。6 施設等の現状と課題でございます。本市における学校施設は、昭和40年代後半から昭和60年代にかけて集中して整備されております。今後老朽化した大量の施設が更新時期をむかえます。玉名市では、学校規模適正化による学校再編を見据えながら施設の建替、中・長期の改修を行う予定です。その予算確保は困難な状況にありますので、緊急性・必要性・優先度等を検討しながら、総合的かつ効率的な整備が必要であると考えています。私どもの適正化に対する基本的な考え方として、学校は単に教科等の知識や技能を習得させるだけで

なく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であり、そうした教育を十全に行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団の配置が望ましく、一定の学校規模の確保は重要であると考えています。また、学校は教育の施設であるだけでなく、地域のコミュニティの核として多様な機能を持ち合わせていることから、「地域とともにある学校づくり」の視点も大切にしながら議論を行っていきます。

(ウ) 今後のスケジュール

最後に、今後のスケジュールでございます。今年度中に、この会を含め、3回の会議を開催する予定でございます。本日の意見交換①育てたい玉名の子どもの姿②学校教育環境の整備について意見をいただき、その内容を2回目の会議の柱として議論をまとめてまいります。この議論によって基本的な考え方を提案していただく予定です。丁寧な議論を重ね、ご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

(エ) その他

議長：ありがとうございます。これから意見交換になるわけですが、その前に今までの事務局からのご説明につきまして、ご意見は後回しにして、ご質問がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。今なぜこの検討の必要があるのかということを変更して、前回の計画の進捗、現在の子供数少子高齢化時代の子供数の現状、そういったことについて説明していただきましたが、よろしゅうございますか。また、ご不審な点、ご質問にかかわるようなことがありましたら随時ご発言いただくことにいたしまして、それではこれから意見交換に入りたいと思います。

(オ) 意見交換

①育てたい玉名の子どもの姿

議長：学校規模適正化を考える時に、一番大切なことは玉名の子供たちをどういう風な子供たちに育てたいのかという、育てたい子どもの姿をある程度共通認識することが必要になってきます。それを踏まえてそんな子供たちを育てるためには学校規模や学校環境はどうあるべきかという2番目の柱になってくるところかというふうには理解しているところですが、その前段ですね育てたい玉名の子どもの姿これについては、例えば今の玉名の子供たち、玉名市全体の子供たちという場合というのがありますでしょうし、委員の皆様方がお住いの校区の子供たちの姿もあるかもしれません。そういった子供たちの姿を見て、こんなところがもうちょっと足りないな、こんなところで頑張ってもらえるといいなと、そういったものを踏まえて伸ばしたい姿というものもあるかもしれません。もちろんしっかりしているという点もたくさんあると思います。そういったことも含めて日ごろお感じの子供たちの姿を踏まえて育てたい玉名の子どもの姿ということで何かご発言いただければと思いました。いかがでしょうか。どんなことでもけっこうです。

委員 A：玉名市の校長会の会長をしております、三次と申します。有明中学校の校長をしています。誰か口火をきらないと中々言いにくいと思いましたが最初に申し上げたいと思います。僕は今、実はこの玉陵小学校統合時の玉陵中学校の校長をしております、多分集まってきた子供たち玉陵小の子供たちですね、6校集まってきましたけど一緒におりましたのでとても楽しそうですね、小さい学校から大きな学校になった時に戸惑うような子供もいたんですが、かなりあの・・・いい環境でやっているのかなという風な様子は横で見えておりました。統合することとか大きな学校にすることとかということについて、何が良いのかというのを、まずは玉陵小学校を検証すべきじゃないかなという風に思っています。学習面であるとか、子供たちの気持ちであるとか、あるいはその保護者がどう思われているのかとか、あるいは地域の方がどう思われているのかという、そういう風な、せっかく一つ統合しましたので、玉陵小がどうだったのかということがとても今後の学校規模適正化に影響を与えるのかなという風に感じておりますので、事務局の方でいろいろ取ってあるのかもしれませんが、建議の中にでも玉陵小はこうだったという話を、是非入れていくと具体性のある学校規模適正化の計画が出来上がるんじゃないかなという風に思っております。でも多分うまくいっていると思っておりますので、そういう風なところを入れていくべきではと思っております。以上です。

議長：はいありがとうございます。6校が統合した小学校は県下にはほとんどありません。そういった意味では大規模な統合の中でつくられた玉陵小学校を一つの検証の場面として、いろんな数値等も出てまいりますので、それを検討する作業も併せて進めてはどうかというご提案でした。これにつきましては事務局と相談しながら、その方向で考えさせていただきたいと思っております。いかがでしょうか、他にどんなことでも結構ですが。育てたい玉名の子どもの姿、お気づきの点がございましたら。

委員 B：こんばんは、横島小学校の校長をしております、本山といいます。昨年まで、玉水小学校にいました。今玉陵小のことが話にでましたけど、天水の場合は少しですね状況が違ったかなと思っております。さっきの計画のところを見てみますと、一体型じゃないのも許容するような方向で示されておりました。やはりどうしても自分のところから学校がなくなるという感情的なところが入ってきますので、その辺に柔軟に対応していただくのはとってもいいのかなと思っておりました。まずそれが一点です。それと、育てたい玉名の子どもの姿ということですけど、たくさんありますけど一つはですね、故郷を愛するということ、故郷（ふるさと）に誇りを持つということ、そういう視点はとっても大事なな思っています。児童数・人口がどんどん減っていく中で、自分たちのところに誇りをもって、そこを活性化したり頑張りたいという気持ちをやはりそういうのを育てないといけないかなというのが一つあります。もう一つは、外国の方もたくさん入ってこられています。考え方も、基本的な価値基準から違う方と一緒に仕事をしていくような世界が今から待っているんですね。その中でやっぱり多様性がとっても大事ななと感じています。まずはその二つを重視していけたらと思っております。以上です。

議長：はい、ありがとうございました。いかがでしょうか、そういった形で項目というか、

特徴を挙げていただけると、後で取りまとめた議論という風になるかと思いますが、お気づきのことがありましたら。特にこれまでの玉名市の計画でいうと、ナショナルリズムとグローバルリズムということですね、どうやって現代的に具現化していくのかという課題という風に今おっしゃったのかと思います。いかかでしょうか。はい、お願いします。

委員 C：はい、鍋小学校の西本です。この平成 24 年 10 月に玉名市教育委員会で作られた「玉名市学校規模・配置適正化基本計画」、たまたま私もこの時、審議会に同席していたのを思い出しました。今本山校長先生からありましたのは、2 ページにこの時の、資料の 3 の 2 ページにうたわれていたなあと思い出しております。子供たちに将来の夢や希望を描ける人づくりということで、世界への順応性（グローバルリズム）、それと日本人としての尊厳（ナショナルリズム）、生まれ育った玉名への誇り（ローカリズム）、これを求めてどういう対応をするかというのは今の玉名市の教育にも表れていると思います。例えば世界への適応力というのは、外国語、力をつけたいということでエンジョイ・イングリッシュがここで取り組まれました。そして、日本人としての尊厳（ナショナルリズム）、それと生まれ育った玉名への誇り真ん中の尊厳というのは「玉名学礼節」というのがありまして、ここで取り組まれています。そして、玉名への誇りというのはまさに玉名学ですね。玉名学というのを具体的に行いまして、小中一貫教育で充実させてきたかなと思います。これが当時の子供たちの身に付けさせたい力ですかね。未来を切り拓く玉名の子供たち、玉名に誇りをもって世界で活躍できるような子供を育てたいというところが挙げられるかなと思います。今でも玉名市の学校教育目標で教育委員会さんがつくられておられるところで表れているかなと思いました。そのような玉名市の教育目標と私ども審議会でもう一回その辺を温め直していきたいなと思っています。以上です。

議長：ありがとうございます。校長先生で色々な関わりをこれまでお持ちであったということで 8 年前の教育の形が今もそのままですね、私たちがしっかり取り組まなければいけない基礎的なものといいたいでしょうか、そういったことではないかというご発言だったと思います。いかがでしょうか、8 年経ちますとそのころ結婚された方のお子さんが小学校になるわけですけれども、保護者の方で、何か、昔はちょっとわからないけど今の子供たちはということでも結構です。そういう風なこと、保護者の方委員の方から何かご発言いただけるといいかと思いますが、どなたかいらっしゃいませんか。はい、ありがとうございます。

委員 D：皆さんこんばんは。天水町小天小学校の PTA 会長を務めさせていただいております神田と申します。育てたい玉名の子どもの姿ということですが、すごい個別、具体的なことになるんですが、あの・・・何ていうんでしょう、私たち、私が小学校の頃とかもそうなんですが、すごいみんな割と自立していたなという感じがします。というのも今の子供たちっていうのは確かに、知能であるとか体力であるとかは私たちの頃に比べたら勝っているのかもしれませんが、自立心という面でちょっと足りてないかなと感じる部分はあります。それは保護者も大いに関係あると思うんですが、具体的に言うとなんていってもあの・・・通学ですよ、習い事等もあるかもしれませんが、天候の関係等もあるかもしれませんが、かなり送り迎えが多いというのはすごく感じております。その点は、先日県の PTA の会議でもそういった課題が上がっていましたので、体力面が心配であるのと、子供もそもそもそれをあてにしているところがあって、もちろんここに書いてありますように、グ

ローバリズムとかナショナリズム、ローカリズムもあるんですけども、こういったことも大事なんですけれども、子供が一個人としてどれだけ精神的に強くなっていけるかというのはすごい大事だと思います。これというのは中々数値化もできないし、今の世の中根性論で頑張れよというのもちよっと時代遅れかなというのがありますけれども、この辺をどうにか改善できればなど、私も一保護者としてそれは常に思っております。なるべく甘やかさないようにとか過干渉にならないようにとは考えているんですけども、どうしても周りのバランスとかも考えるとその辺がちょっと今難しいなと肌で感じております。すみません、ちょっとまとまりがない話で申し訳ございませんが以上でございます。

議長：はい、ありがとうございます。自立心という言葉ですね。ありがとうございます。いかがでしょうか、どなたでも結構ですが、お気づきの事、ワンポイントでも結構ですが何かございましたら。はい、お願いします。

委員 E：伊倉小学校の PTA 会長を務めております荒井です。子供たちに、どんな子供たちに育ってもらいたいかというのと、やはり地域の事を愛する子供たちになってもらいたいというのが一番なんですけど、地域といってもその範囲として、一番はその自分が住んでいる校区ですね。大きくなってその校区を懐かしんで戻ってくるような、やはり大事にするような子に育ってほしいというのが一番で、伊倉地区では4月、10月にお祭りがありまして、その祭りではやっぱり学校が一つとなって子供の笑顔が見られるっていうような行事がありまして、校区校区の特性を生かしたですね、地域に根差した子供に育ってもらいたいというのがあります。それで先ほど三次先生が言われたように玉陵地区が合併してそのやはり検証というか、玉陵地区も合併して今現在は児童が増えたかもしれないけど、合併の話が出たことによってその地区に住む、新しく家を建てる方がどれくらい増えたのか・減ったのか、その10年20年の、合併するという話が出ることで自体によってその地域に住もうという考えがなくなるっていうことも考えられるのじゃないかなと僕は思っています。玉南地区で言いますと、この資料にもありますように、20年先には中学校も1学級となるかもしれないということにあります。来年度の中1でもたぶん40数名だと思います。中学校のクラス、中学校の人数を減らさないためには、小学校単位でそこに住む人たちが、定着させるのを目指していかないと中学校が増えないんじゃないかな・維持できないんじゃないかなという思いがあります。もし地域に小学校がなくなると、やはり伊倉八嘉、玉陵地区もそうでしょうけれど山間部が多いところはどうしても一次産業、農業の割合も多くて、人がいなくなると耕作放棄地が増えて住める方が少なくなり、村自体が消滅していくことも考えられるので、そこも考えて議論していただきたいかなと思います。

議長：はい、ありがとうございます。いかがでしょうか、今地域の祭りといったこと、それを大事にする。そしていつか戻ってくる子供たちという言葉をお使いになりましたけれども、地域代表というか地域の方から出席されている委員の方で、何かそのあたりの地域を大切にすることに関連してご発言いただけるとありがたいです。いかがでしょうか、どなたでも結構ですが。いかがでしょうか。

議長：今日の会議では、「児童数・生徒数の推移」については、この一枚ものをお出しただいておりますけれども、2020年、2025年のものです。学校関係の将来予測はおおむね10年後というのを念頭に置いて考えなくてはいけないんですが、実を申し上げますと2030年

の校区ごとのデータがまだ整っておりません。そういった意味では 2020 年から 2025 年の 5 年間の減少、それをもう少し厳しくなったものが 2030 年くらいになるのかなど。単なる延長ではなくて、減り方の角度がもう少し厳しくなるのかなどと思っています。なお、玉名市全体の人口については 2045 年までデータがあります。そういった意味ではどういう風に玉名市の総人口が減っていくのか、その中で年齢別の統計ぐらいが一つの手がかりになるのかなど。将来の見通しという意味ではですね、そういったものにつきましてもご要望がありましたらできるだけ沿っていきたいと思います。ただこの玉名市というところの特徴は熊本県全体の縮図になっているということです。ただいまも山付きと言うか山間部という言葉が出ましたけれども、熊本県全体の（人口の）減り方の代表選手が玉名市であると、こういうふうに考えていいのかなどと思っています。そういった意味では、熊本県全体が抱えている教育的課題。私も少し調べさせていただきましたが、玉名市ではまだ複式学級は 1 校だけという風に聞いております。ただもう熊本県全体では 2 割くらいの学校が、複式学級に入っておりまして、そういった意味では 5 年後の段階ではまだまだ複式学級はなくても、はっきりとしたことはきちんと分析していませんが、遅くとも 10 年後には複式学級に変わっていく、そういったことも見通しとしてあるのかなど。私もこのデータを吟味して申し上げなければいけないんですが、そういった風には考えているところです。学校関係の方にとっては、複式学級というのはよくご承知だと思いますが、あまりご存じない方で申し上げれば、3 年生と 4 年生が一緒になって勉強するという形態。45 分のうち 20 分が 3 年生の国語、残り 20 分が 4 年生のまあ、だいたい国語か算数そういった形です。ただ 20 分 20 分で分けずに中で間接指導という形で係わっていく場合もあるかと思いますが、複式学級というのは、前はあまり出てきませんでしたけれども、今回の議論では少しそういったことも検討材料の一つとして出てくるのかなという風には考えております。ちょっと私の方からは補足ということで発言させていただきました。いかがでしょうか、何か前段を通じての特に、育てたい玉名の子ども姿ということで。こういったことは実はグループワークで時間かけてやることが多いんですけど、先ほど神田委員さんから自立心という言葉がありました。そんなことと言うと、「ハングリー精神が足りないよ。」という言葉がよく聞かれます。ハングリー精神。我慢強さ。すぐあきらめる、こんなところがあります。おそらくそういったところが共通の課題でしょう。それをどういう手立てでやっていくかということで、先ほどですね、どうも時代遅れではないかという風なお話もありましたけれども、やはり今の教育理念から考えると、我慢するとか、耐性、耐えるという耐性の教育という言葉も大きな課題となってきます。併せて、社会規範ということも出てきたかなと思います。道徳が特別教科に小学校でなりましたけれども、そういった大きな流れの中で、これから育てたい玉名の子ども姿、継続して議論しながら、というふうに考えております。

②学校教育環境の整備

議長：それでは二つ目です。学校教育環境の整備について。これにつきましては一つ、玉陵小学校のケースを事例にしたいということで今日の一つの手立てということになると思います。私も玉陵小学校統合前の時には、家庭教育学級なんかでよく訪問することが多くて、該当するところでは梅林小学校と月瀬小学校に訪問したことがあります。両方とも PTA の主催のものにお話をしに行きました。本当に小規模で家庭的な雰囲気のところであったんですが、それ故にどうしても子供たちに対して甘くなってしまう。過保護って言葉は、中々使いづらいところがあるんです。親だから子供を愛することは当然で、過保護という

言葉は本来ないんですけれども。やっぱりそういったことが課題としてありました。また、今から4年くらい前ですか、玉名中学校の校長先生をされておられた太田恭司先生、ご退職後に熊本大学教職大学院の教授でお出でになったものですから、私も玉名のことに関心がありました。「玉中プライド」とか、熱い口調で語られたこともよく覚えています。そういった先達の方々がいっぱい取り組んでの今の玉名の教育であるかと思うんですが、さあ、2番目の柱です。学校教育環境の整備についてこういうふうな学校であるといいなという夢、要望そんなところも含めて、ご発言いただきますと大変助かりますがいかがでしょうか。今日のところは予算のことは考えずに夢を語っていただければと思います。はい、お願いします。

委員 A：玉陵小を皆さんご存知だと思うんですけど、6校集めましたので、スクールバス今7台だったですかね、7台のスクールバスがあって子供たちがこう集まって来ております。スクールバスですので玉陵小の課題としてバスで来るので、体力的な面が心配ということがありましてですね。玉陵小学校の子供たちはバスから降りてカバンを置いたら、グラウンドを毎日走っているんですけどね。そうやって体力が落ちないようということとされているんですが、どうしても校区が広がりますので、統合するとですね、広がるのでそこで子供たちをどういう風に育てていくかということとは、まず考えておかなければいけない一つのことかなあという風に思います。で、学校の教育環境ってということについては、今予算のことを抜きにしてと言われましたけども、予算がたくさんあるならば、いろんなこと、例えば統合の話でこっちとこっちとか校区はいやだけんとか真ん中に建てましょうというのは簡単ですけども、建てるならばまた莫大な予算が掛かりますので、そういったことも含めて考えなければいけないし、もう一つは予算のことと絡むとですね、実は統合すると教職員の数がかなり減るんですよ。玉陵小は6校が1校になっているので、何人減ったですかね、計算はしてませんが、ただ僕たちの給料は国と県が出しますので、国と県から予算きてたのが、実は人件費として、国と県は予算を使わなくて済むということになるんですが、学校が大きくなると加配の先生といって、定数以外でも取れるというメリットもありますので、一概にどっちがいいかはちょっとわかりませんが、玉名市としては施設設備に対しての予算は使わなくてよくなるということですね。僕は今回、前回の計画書読んだ時には気づかなかったんですけど、お金のことが入ってないですよ。施設設備を、というときにお金のことはやはり入れておかないと。実はその辺が地域住民の方がですよ「じゃあ俺たちのところには金使わんとか」と文句も出るんですが、でもそこは避けて通れないことじゃないかなと思うんですよ。玉名市の予算の総額の中で学校予算としてどれだけ使えるかというのがあるので、その辺の話がきちんとこう教育環境を整備する中でもお金がいることなので、そこについてはこういう予算でこういうふうにしていききたいというようなものを出していかないと。さっき老朽化に対するグラフなんかがありましたよね。ああいうふうなのをきちんと出していきながらですね、例えばその校舎一つ建て替えるのにも何億くらいのお金がいるとかですね、そういうことをきちんとやっていかないと、なかなか地域住民の方にきちんと説明する時に、大事なことを黙って進めていくような形にならないようにしないとかなんかということも考えながら前回の計画は見させていただいたんですけども。で、さっき少子化の話が出て

きましたけど、僕は学校教育から少子化を止めたいという一人なんです。地域を愛するというお話がお二人から出ましたけど、自分の故郷は自分で守るという子供たちを学校教育の中で育てられたら帰ってきますので、少子化の歯止めには少しはなるかなと。だから今このグラフで下がっているグラフをどうにか玉名市の教育の中で角度をですね、緩やかにするなり、よかならば平坦にして、よかならば上に上がるように学校教育の中ででもしていきたいなという気持ちを持っていますが、是非玉名市としてもですね、少子化対策の具体的なビジョンがこうあるという中に学校教育をバシッと入れていただいて、その中にその統合の計画も少子化対策の中にガチッと入ってくるというんですかね、何かそういうふうな玉名市の政策の中での学校規模適正化の計画というような形に進めていかないといけないのかなという感じで、前回の計画を見させていただきました。ちょっとたくさんしゃべりましたが、以上です。

議長：はい、ありがとうございます。今のご指摘に関係しますけれども、前回の計画の背景と今回の計画の背景で一つだけ異なるとすれば、安倍政権のもとで進められた地方創生政策、その枠組みの中に教育改革が組み入れられたということです。コミュニティスクールの議論が出てきたのが2004年それから16年間コミュニティスクールの議論をしていますが、5年前に改めて地域学校協働事業、これについては中央教育審議会の答申ですが「地方創生の実現」ということが答申の題名にもうたわれました。これまでは教育の振興だけでよかったんですが、教育の振興と併せて地方創生、地域再生という言葉がうたわれました。地方創生事業で一番わかりやすい事例を言うとなると、玉名市にも、地域おこし協力隊という人が3人くらい来ておられませんか。ホームページを作ったり、そういった人たちを通じて活性化を進める。こういった動きの中に教育もあるという意味では少し計画の書きぶりの中にそういった趣旨を盛り込む必要があるのかなと。そういった意味では教育政策そのものというよりも総合的な社会政策に変わってくる。だからこそ少子高齢化対策を少し踏み込んでみては、というご意見につながるかなという風に理解しました。よろしいでしょうか。いかがでしょうか、どんなことでも結構です。あまり難しく考えなくても結構ですが、学校教育環境といった場合には、施設の老朽化ということで施設問題もあります。とともに教育方法の改善、教育内容の改善といったことでは、小中一貫教育の充実とか、たくさんあるだろうと考えています。そういったことを含めてどんなことでも結構です。いかがでしょうか、お願いします。

委員 B：失礼します。教育環境の整備ということで、今玉名市でも進めていただいているコミュニティスクールですね。地域学校協働活動推進員という方が、今年度から各学校に1名ずつ、大きい学校は2名ですかね、配置していただきました。横島小もずいぶん前から国版のコミュニティスクールが入ってきてまして、国版ですけど、どちらかというとな熊本版のコミュニティスクールみたいな立ち位置で学校を全面的にバックアップしていただいています。地域のそこの間に、今度推進員になられた方が、今までは管理職とか担任が連絡をとって地域の方に入っていたりしてたんですけど、その間に入って動いていただいているので、とても今いい方向に行っているなというのを感じています。先ほどのあの故郷を愛するとかですね、地域に根差したとか話をしましたけれども、やはり地域の方

がしっかり入ってきていただいて、子供たちは今年ですね、横島で4Hクラブといって20代の若き農業者たちのグループがあるんですけど、そこから学校教育のお手伝いがしたいという申し出がありました。田植えから米づくりまでですね。つい先日は横島の交差点の一角が丁度今、草ぼうぼうになってるんですね。そこで花づくりをしたいと、その4Hクラブがですね、ゆくゆくは学校に、子供たちと連携したような形でしていきたいと。そういう若い農業者の活動を子供たちが見ていくと、とてもメンターというかいいい大人のイメージというかですね、そういうのにとっても繋がっているなと思っています。そういう地域で子供たちを育てる、地域の方と触れ合って育っていくというのはとても大事ななと思っています。それともう一つですね、質問も入るんですけど、学校規模適正化という言葉が、最初起こった時はそれでよかったのかなと思うんですけど、今から先ちょっとそこは、今の状況で平均で出されると、大きい人数が多いところと、少ないところと、ちょうど1学級はすはすで2学級になってないところとか、いろいろあるんですよ。で、逆にその・・・少人数学級が今からコロナもあって動いていこうとしているところで、より有利な学級もたぶんあるのかなと。ギリギリ35人未満や40未満の学級は一人の先生で大人数を指導しないといけない。そういう中でその辺の数値もですね、出てくると、実際統合したら丁度いい、今から先の子供たちが協働しながらしていくような学習活動をするのに、丁度いいようになるのかどうかですね、その辺も含めてこの規模適正化というのは合理化だけのその、そういう視点だけじゃないですよというのを全面に打ち出していく必要があるのかな、というのを感じています。ちょうど横島がですね、今年の1年生も35人だったんですけど、2月に1名36名になり2学級になりました。来年の1年生も今のところ35名なんです。そういう状況の学校も丁度はずはすで1学級でいっぱいというところもあるので、その辺もちょっと視野の中に入っていくと、考えやすいのかなと思います。すみません、以上です。

議長：はい、ありがとうございました。学級規模の場合はですね、今おっしゃったような数字のマジックと言うんでしょうか、40だったら1学級ですが41だったら2学級とかそこらへんがあるので、どちらかという学校全体の児童数生徒数をしっかり分析しながら、ということになると思います。あと併せて、今、教育活動・教育内容ということも申し上げましたけれども、これから学級規模とともに集団規模のことも併せて考える必要があるなと思います。特にご案内のとおり小学校ではアクティブラーニングというのが始まりました。集団での活動、そうしますと、どういう集団規模が良いのか、それとともに、今後もう一つの課題になってくるのが、人数が少なくなっているとともに、男子と女子の比率、これもかなりバランスが崩れてきているところもごございます。そこら辺がデータとしてわかるようなものがありましたらこれから、という風にはと考えています。これからはですね量だけではなくて、質の面からの規模もしっかり考えていく必要があるかと思っています。これにつきましては事務局と相談しながら検討資料というものを精査していくつもりではありますけれども、ご希望等ありましたら是非ご指導いただければ幸いです。いかがでしょうか、他に学校教育環境の整備についてご意見ご要望がありましたら。

委員 C：学校関係者ばかりで発言して申し訳ありません。鍋小学校の西本です。先ほどこ

の1枚の紙を見させていただきまして、私も改めて認識しましたのが豊水小学校さんですね。だいたい少子化なので子供たちが減って行って、1学級になってしまう。やはり学校としては1学級よりも3学級で子供たちに教育をしたいなという気持ちがたくさんあります。それで豊水小学校の42名になるというのは、喫緊の課題じゃないのかなと思っております。それともう一つ気になるのが滑石小学校さんの71名というのがあります。滑石小学校は玉名町と築山小学校が同じ中学校区域ですので、玉名町小学校さんと築山小学校さんはある程度子供の数がおりますので大丈夫かなと思っております。有明中学校区は大浜小と横島小学校さん、そこで横島小学校は200名はおられるということで、この中学校校区の見直しといたしますか、検討といたしますか、その辺も大きな課題になってくるのかなと思いました。特に豊水小学校さんが42名、現在も57名というところで、学校規模適正、複式学級じゃない3学級での教育を保証するという意味ではこの課題を解決しなきゃいけないと感じております。

議長：はい、ありがとうございます。5年間のデータでもそういった形が出てますので、私たちがひとつ考えたいのは10歳。10歳の子供が成人するときという意味でも10年間を見通しとしてもちたいのですが、ただいま中学校区の見直しもということです。これについては事務局の方でもこれから議論が必要になってくるだろうと思います。またきちんとした方向性というのは、前回を一応ベースにしてということだったものですから、それについてはこの審議会の議論の推移を見ながら、中学校区まで踏み込むかあるいはどうなのかということについての議論は慎重に進めさせていただくということによろしいでしょうか。

いかがでしょうか。指名で恐縮ですが、先ほどご発言いただきました、伊倉小学校PTAのE委員さん。お祭りのこととか、郷土のことについてですね、地域の事を愛する子供といったようなご発言ありましたけれども、学校の授業の中でそういった地域の事を教材化するとか、地域に学ぶ授業とかそういうことについてご要望がありましたらご紹介いただけますか。

E委員：現在伊倉小学校では、伊倉の地域のことについて時間を割いて授業が行われてます。伊倉は歴史ある町なので神社仏閣だったり、いろんな歴史、江戸時代からある物語など、そういったことも含めて子供たちは学んでいると思います。それによって地域を愛する心が育まれてくれればいいなと思ってます。それと学校教育環境の整備についてということだったのでそれについても。今年はコロナによって自粛期間というのがありまして、玉名は来年からタブレットが入るということですが、先行して入っていた地域もあるとは思いますが、タブレットによって学校と子供たちとの結びつきもあるとは思いますが、オンラインによって玉名地域外、県内あるいは全国、グローバルな子供を育てるといった話もでてましたので、海外とも繋いでいけるんじゃないかなと思うんで、そういったことも教育に取り入れていただきたいなと思います。以上です。

議長：はい、ありがとうございます。伊倉小学校というので思い出しましたが、私も家庭教育学級で訪問させていただいたことがあります。冬に行ったんですが、もう真っ暗ですね、学校まで行くのに大変だったことを思い出しました。ただICT・・・今オンライン

だとか ICT についてはですね、実は国の予算も「GIGA 計画」といった形で用意されています。電子黒板だとかタブレットこういったものを整備するチャンスではありますので、この計画とはちょっと離れますけれども、そういった機会を利用して設備の充実というのでも考えてもらうといいかなと思います。ただそれを指導する人というのは、扱う人、なかなか学校の先生も ICT が苦手な先生が多いもんですから、そういったことをちょっとお手伝いいただく指導する人、そういった方が地域の教育ボランティアとしていらっしゃると本当に充実しているのかなという感想を私自身は持っております。ありがとうございました。いかがでしょうか、そういった形でほんとうにコロナ禍の中での課題、たくさん出てまいりました。運動会も多分相当遅れて、しかも午前中だけの開催ではなかったかと思いますが。様々なところで影響がありました。今週・先週ぐらいが修学旅行に行ったりとか、5年生の集団宿泊だとかが、少しずつ県下では始まっているようですけれども、そうした中で、どういう風に子供たちに良い環境を作っていくかというところが私たち大人に問われていると考えています。さあいかがでしょうか、どんなことでも結構ですが。あとお一人くらい。

F 委員：こんばんは。滑石の区長会長をしております、山内と申します。実は今日のこの会議があることのために、私は昨日滑石地区の区長会を開いたんです。そして「こういう会議が明日あるんですけど皆さんご意見いかがですか」という風にして聞いたら、あの・・・この何年前ですか、この答申の内容はですね、やっぱ皆さんある程度知ってるんですね。2012年、平成24年に出された答申の内容、先ほども出ましたけど「滑石小学はこうだから、隣の学校あたりと合併になるんだよ。なくなるんだよ」という風な感じのことを話して「なくなるようになっていいね」と。でもそれはね、やっぱ今日聞いていて、私は最初に古賀先生が言われたことで「あ、これかな」と思ったんです。というのはやはり小中一貫教育、もう滑石小学校がなくなるとかいうのは地域エゴ。ふるさとをつくるそれは当たり前のことです。日本を愛するですよ。それが非常に大事なことであって、「自分の地域に小学校がなくなったら」これも非常に私も思いましたよ、確かに。ぜひ滑石小学校がなくなると、滑石小学校中心にしてこの地域を盛り上げていこうというふうなことを自分自身も一つのテーマにおいて区長会長を引き受けたんですけど、昨日話を聞いていて、先ほど古賀先生のお話を聞いても、子供たちの教育に一番いいのは何か、どうも小中一貫教育だな。ある程度の人数がいるところで子供たち、やっぱり競わせて、仲間づくりをさせていくのが一番いいのではないか、そのためのこの適正化の審議会かなという風に思ったものですから。ま、これから先どういう風に話が進んでいくのかちょっとつかめないところがありますから、先ほども地域住民ですか、区長会の方から何かご意見ありませんかと言われた時、どこから言っているかちょっと分からなかったんですね。教育問題は校長先生方が毎日毎日考えられていることだからその通りですよ。その通りだけど、この話はもうちょっと大きな話、あるいは日本全体の話ですね。これ。玉名市が熊本県を凝縮したような形になつるという風な話を先程されましたけど、これは日本どこでもそうですよ。もう熊本県だけじゃない、そのためには小中一貫教育「あ、これだな」という風な気がしたんですけどねえ。これからの話を期待しております。あと何回かありますから。どこでまとまっていくのかちょっと分からないものですから。以上です。

議長：ありがとうございます。今日はどちらかというフリートーカーに近いところで、お互い委員の皆様方がどんなことを考えているとかですね、あるいはもっと言えばどんなことに不安をお持ちなのかといったことをざっくばらんに出していただきながら、次回からの協議に収斂させていくとか、まとめていくという作業です。そういった意味ではそれぞれのお考え、価値観様々、多様であるわけですから、それをお出しただいてですね、特に子供たちを思う心は皆さん一緒です。子供は地域の宝物という言葉もあります、家庭の中では子供たちが主人公であると。そういった思いを大切にしながら、学校規模適正化についての議論をこれからより深めていくという風にさせていただきたいと思えます。ただ先程申し上げましたように学校規模の適正化、学級規模の適正化だけではなくて、適正化を通じてどういう教育内容の改善をしていくのか、それとともに施設の老朽化ということがあるんですが、よりそれに対応した方向。やはり4年前の地震もそうですし、今年7月の豪雨被害で、かなり学校、校舎等あるいは体育館等被害があったわけですが、その効果的な活用も含めていろんな議論をする、その中で子供たちのための学校規模適正化ですが、地域の人にとってもそれを進めてよかったと思っていただけるようなですね、議論ができれば幸いです、こういう風に考えております。ただいま一応フリートーカーで、二つの項目についてお話していただきましたけれども、この時点で事務局の方から何かコメントとか、何かお話がありましたら、いただけると幸いです。これからのことを拘束するという話ではなくて、お約束ではなくて、こんな感想を持ちましたで結構ですので、ちょっと事務局の方からどなたでも結構ですから一言コメントしていただけないでしょうか。いただけますか。

小山教育総務課長：すみません、私の方から今ご意見があった感想をといいますか、事務局からのお話をさせていただきたいと思えます。教育総務課長をしております小山と申します。どうぞよろしくお願いたします。それぞれの思いというのを十分私たちには伝わったような気がいたします。どうしてもやっぱり、学校という施設はいろんな目的があるかと思えます。当然大事な目的は、当然子供たちの学習の場というようなことだと思えますけれども、それ以外に地域コミュニティの拠点、それに災害のための避難所、いろんな目的がある中でこういった学校規模適正化をご審議いただくというような状況で、それぞれ目的が違う中で、それぞれ委員さんが苦慮しながらご意見いただいたという風にも思っております。その中で、この意見交換の目的にもあります通り、育てたい玉名の子どもの姿というのでご発言もたくさんいただきまして、私共にとっては、子供のため、子供たちがどう育っていくかという事を着眼点におきまして、いろいろこの審議会の方をまたさらに進めていきたいという風に思っております。それぞれ地域のしがらみとかっていうのもあるかと思えますが、そういった視点で今後も進めていきたいと思っておりますので、どちらにしてもいろんな意見をさらに今後もいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

議長：ありがとうございました。こうした議論というのは、委員の方だけではなく是非PTAや区長会そういった区の集まり等ありましたら、こんなことを今玉名市の教育委員会では

審議していますよと、そういった形で情報を皆さんにお届けする、あるいはご意見をその中で拾ってきていただいてもありがたいかなと思います。そういった中で、やっぱり市民の納得のできるような丁寧な議論を積み重ねていきたいとそういう風に考えていますので、今後とも審議につきましてのご協力、どうぞよろしく願いいたします。それでは議事については、本日予定されていた議事が一通り終えさせていただきましたので、ここで進行を事務局の方にお返しします。本日はありがとうございました。

6 その他

事務局（乗富）：古賀会長ありがとうございました。それでは5番の「その他」の方に入りたいと思います。次回の日程調整をさせていただきます。次の会議を1月に開催したいと考えております。予定の日を入れておりますが、1月15日・1月18日・1月19日・1月20日、この4日間のうちに行いたいと思っております。今の時点で都合が・・・先のことですので中々わかりにくいかと思いますが、今の時点で都合が悪い日があられます方は・・・。

G委員：20日が市Pの会議が入っているので。

事務局（乗富）：20日ですね。他にはございませんでしょうか、大丈夫でいらっしゃいますか。それでは勝手ながら1月19日の火曜日をとと思いますがよろしいでしょうか。（確認）ではすみません、またこちらの会場を取っておきたいと思っておりますので、1月19日のまた夜になりますが、どうぞよろしく願いいたします。今回は資料の発送が遅くなりまして、皆様ご意見出しにくかったかと思っております。次回はできるだけ早めに資料をお送りしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

7 閉会

事務局（乗富）：少し時間が早いですがけれども、何か言い忘れたようなことはございませんでしょうか。本日は皆様のご協力のもと、スムーズな議事運営ができたと思っております。ありがとうございました。最後に、閉会を玉名市教育委員会教育部長西村が申し上げます。

西村教育部長：教育部長の西村でございます。本日はお疲れの中、長時間にわたり多くの意見をいただきありがとうございました。また次回も1月にこの会議がまたあります。またご意見をいただきながら学校教育環境の整備を進めてまいります。本日はありがとうございました。

事務局（乗富）：本日はありがとうございました。皆さんお気をつけてお帰りください。正面の玄関が閉まっておりますので守衛室の前の出入り口をご利用いただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。